



平成30年3月1日

発行 長野市立篠ノ井東中学校

人にやさしく、自分によさ

〒 380-8003 長野市篠ノ井小森 840 TEL 0262-292-0135 FAX 0262-292-0637  
http://www.ngano-ngn.ed.jp/shinoh.jh/ E-mail shinonoihigashi@jh-naganongn-ed.jp

### 今日から3月 有終の美

1年間で最も寒い時季が終わり春が近づいています。小平奈緒選手を団長とした日本選手団が大活躍した平昌オリンピックも閉会しました。今日から3月です。3年生の皆さんは、入試や卒業を前に落ち着いた生活を送ってください。1、2年生の皆さんは、お世話になった3年生をお送りし、自らの進級に備える大切な日々を過ごすこととなりますね。健康にも留意し、有終の美となるよう残り少ないを日々大切にしていきましょう。

### 2月の校長講話



おはようございます。

今年度も残り僅かとなりました。最後のまとめをしっかりとしてほしいと思います。

さて、皆さん、今月の生徒会の目標は、どんな目標かすぐに言えますか。今月の目標は、「切磋琢磨」 ～友と共に、さらに高みをめざし～ですね。私は、特に、この「高みをめざし」という言葉が大好きです。

今日は、この言葉に関係したお話をいたします。

ちょうど3年生が生まれた頃、日本に、「はやぶさ計画」というプロジェクトがありました。このプロジェクトは、7年かけて、地球から3億キロ離れた小惑星イトカワへ探査機を着陸させて、その惑星の砂や小石のかけらを地球に持ってくるという壮大な計画でした。2003年 小惑星探査機「はやぶさ」を載せたロケットが打ち上げられました。2005年 小惑星イトカワに着陸し、イトカワの鉱物を採取し地球に戻ろうとしたわけですが、順調には地球に戻ってくることができませんでした。

途中で燃料が漏れたり、エンジンが停止したり、地球との通信が途絶えたりと様々なトラブルが発生しました。一時は、どこを飛んでいるのかさえ分からなくなり、関係者はもうだめかと思ったんです。しかし、その後「はやぶさ」が発信していた微弱な電波を、佐久の臼田にある電波望遠鏡でキャッチすることができました。そして、その電波を手掛かりに、地球からの遠隔操作で、地球に帰還させることに成功しました。2016年6月でした。当時は、日本だけでなく、世界中が感動しました。「はやぶさの偉業」とまで言われました。

はやぶさ計画を成功に導いたものは、最先端をいく高性能なIC機器だけではなかったんです。スタッフ全員の強い意志と、チームワークも大きな要因でした。はやぶさプロジェクトの責任者は、川口淳一郎さんという方です。川口さんは、著書の中で、「高い鉄塔を建てなければ、新しい水平線は見えない」と書いています。

青森県出身の川口さんは、東京大学を卒業後、宇宙への憧れを持ち、今のJAXAの前身である宇宙科学研究所に入りました。しかし、当時、40年前の日本の宇宙開発の技術は、世界と比べればかなり遅れていました。それどころか、国の予算も少ない状況でした。しかし、川口さんの開発チームは、弱音を吐くことなく懸命に様々なプロジェクトに取り組み成果を挙げていきました。そして、次々に目標を立て、宇宙開発に果敢に挑戦していきました。「高い鉄塔を建てなければ、新しい水平線は見えない」という言葉は、いつしか川口さんの生き方そのものになっていったのです。

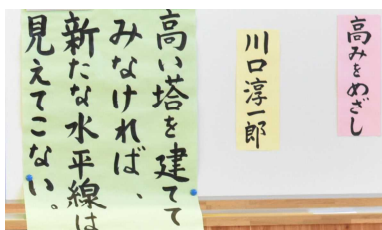
この言葉には、「低いところに居ては、水平線は見えてこない。水平線は、例えるならば、はやぶさ計画。その水平線が見えなければ、ここを目指そうとすることさえ思いつかない。いつも同じ目線でいては、目指すべき将来や未来は見えてこない。思い切って、背伸びをして、高いところに登ってみる。無謀だと思ってもチャレンジすることで、次の水平線が見えてくる」という川口さんの信念が込められています。

川口さんの言葉を、私たちに置き換えてみますと、「高い鉄塔」は、皆さんの目標や願いや志と考えていいと思います。また、新しい「水平線」とは、皆さんのこれから歩いていく将来と考えてもいいのではないのでしょうか。実際、地上で見る風景と、2階、3階で見る風景はずいぶん違います。もっと言えば、645mのスカイツリーから見える風景は、全く違います。

皆さんには、現状に満足するのではなく、更に、高みをめざし、頑張してほしいと思います。

3年生は、中学校を卒業し、それぞれの進む道を歩みます。ぜひ、自分なりの塔を建ててほしいと思います。また、1,2年生には、今、普通に思っている東中の学校生活、これに満足してほしくはありません。東中よりも更に素晴らしい学校を築いている中学校もたくさんあります。

生徒会が掲げた「高みをめざす」ためにも、皆さん一人一人、「もう少し背伸びをする」、「高い塔を建てる」、そしてそこで見える新たな水平線めざし、頑張ってください。



## 6年生体験授業・小中連携

2月10日(土)に、新入生保護者説明会・体験授業が実施され、本校入学予定の小学校6年生や保護者の皆さんが来校しました。6年生は1年生の級長会による東中の説明を受けたり、国語・理科・英語・美術の授業を体験したりして、中学校の入学に備えました。今年度は、小中連携の関係で職員も双方の学校を行き来して、授業参観をする機会も得て、互いに勉強合っています。



## 第3回みがき隊の活動

第3回みがき隊の活動が2月17日(土)に行われ、外部からは【長野市便教会】の皆さんがお越しくださいました。土曜日にもかかわらず、大勢の皆さんに集まっていただき、トイレをきれい掃除して、文字通り磨きあげてもらいました。外部の方々との交流も深まりました。東中の新たな伝統になりそうですね。

## 学校評価アンケートより

昨年11月に行いました学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。アンケートの結果まとめ、考察いたしましたので、ご報告いたします。アンケートの結果につきましては、職員はもちろん、学校評議員の皆様にも検証していただきました。結果につきましては、真摯に受け止め、来年度の学校運営に活かしていけるよう努力して参ります。今後とも本校の教育活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

### ○学校生活一の基本

学校生活の基本については、生徒、保護者の皆様共に、「学校生活が楽しい」に対する肯定的な評価が70%台にとどまりました。生徒は、「楽しみにしている行事」や「決まりを守っている」に対して高い評価であるが、授業や学習に対する評価はやや低くなっていました。一方、保護者の皆様へ「夢をもって意欲的に学ぶ」や「家庭学習の充実」に対する肯定的な評価が50%程度と低い結果でした。

本校では、桐の時間(総合的な学習の時間)にキャリア教育を位置付け、職場見学や職業体験、進路学習を行っています。日々の教科等の学習がキャリア教育の土台になるよう、一層系統的かつ横断的な学習となるようにするとともに、学ぶ意義について考えましたが、その必要感を高めていけるようにし、また、「家庭学習の手引き」を配付して家庭学習の取り組み方を指導してきたが、授業と連動した課題にしたり、提出状況や取り組み方に応じた個別指導を行ったりするなどして、改善していきます。

### ○安全・安心な教育環境

安全・安心な教育環境については、「いじめへの取り組み」に対する肯定的な評価が、教職員が96%、生徒が90%であるのに対し、保護者は54%「相談事への適切な対応」に対する肯定的な評価については、教職員が100%、生徒が72%、保護者は52%でした。

教職員と保護者の評価に大きな開きがあることから、学校生活全般の様子を丁寧に伝えるだけでなく、これまでの教職員自身の生徒や保護者への対応について振り返り、改善していく必要があります。生徒に対する普段からの声掛けや生徒相談等の時間を確保するとともに、生徒の気持ちに寄り添い相談しやすい雰囲気づくり、より良い関係づくりを更に目指して保護者の皆様に対しては、相談事への初期対応を丁寧に行ったり、連絡を小まめにとったりしています。

### ○家庭・地域との連携

家庭・地域との連携については、「わかりやすい情報発信」に対する肯定的な評価が、教職員が96%、保護者は79%であった。また、「地域と学校支援の取り組み」に対する肯定的な評価が、教職員が74%、保護者は69%でした。一方、「相談しやすい学校の雰囲気」に対する肯定的な評価が、教職員が100%、生徒が72%、保護者は55%でした。週に一度発行している学年通信や月に一度発行している学校通信、学級通信やホームページを通して様々な情報を発信していることを肯定的に受け止めていただいています。また、地域とのつながりについては、桐章祭で、地域の講師を招いて地域の特色を活かした体験講座を行ったり、『地域貢献の日』を設けて地区の美化活動を行ったりしています。更に、保護者の皆様や地域の方々へ、意義や内容も含めて情報発信していくと共に、総合的な学習の時間を中心に、地域の方々を講師に招いた授業づくりをするなど地域交流を推進してまいります。

### ○学力向上への取り組み

学力向上への取り組みについては、「よくわかるように教えてくれる」に対する生徒の肯定的な評価が、84%でした。「意欲が高まる授業」に対する肯定的な評価が、教職員が91%、生徒が74%、保護者は55%でした。「思考を深める活動時間の確保」に対する肯定的な評価が、教職員が86%、保護者は58%でした。

生徒の学習意欲を高め、力を付ける授業を願って教職員は日々学習指導してきていますが、肯定的に受け止めている生徒が多くいます。しかし、保護者の皆様評価を見ると、肯定的な評価の割合が50%台に止まり、保護者の皆様の期待に十分応えられていないことが伺えます。私達教師は、その時間にする学習のねらいを明確にして、生徒に課題をもたせると共に、仲間とかかわりながら課題を追究していく『協働的な学び』を学習場面に位置付けた授業へと改善を図ってまいります。